

詰將棋づくし

312-41

X

312

41

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30^{5m} 1 2 3 4 5

始



詰將棋づくし

有馬康晴編著

著者寄贈本

贈呈



まへがき

本書は拙著「詰將棋吹き寄せ」発行以後將棋月報に發表せられた一、二部級の作品の中より秀逸なるものを集録したのであるが同時に岡田秋霞君及び佐藤千文、千万喜兩兄弟を追悼の意味で編纂したものである、三氏とも廿才前後の若さを以て早逝された事は誠に惜しみて余りあることである尙この他にも月報廢刊に先立つて吾人の先輩詰棋界の大家である酒井桂史、吉田俊三郎の兩氏を失ひ素人詰棋界は一段と寂しくなつた。

時は正に危急存亡の秋、敵は既に小笠原諸島に迫つた、この困難な場合を克服して本書を上梓し得たと云ふのも偏に阿部吉藏氏との関係によるもので、爰に革めて感謝の意を表して筆を擱く。

昭和十九年夏

熱海桃山龍歸洞にて

著者識

創作者氏名一覽表

氏名	局數	村山隆治	一局
故岡田秋茂	八局	吉田一步	"
故佐藤千文	三局	廣瀬善一	"
故佐藤千万喜	"	麻植長三郎	"
岩木錦太郎	二局	小田内孝	"
杉本兼秋	"	千葉勝美	"
大橋虚士	二局	雪嶋彬	"
三上毅	一局	伊藤留次郎	"
佐賀聖一	"	鳴下幸吉	"
内藤武雄	"	以上十九氏三十三局及	廿五局
佐藤千明	"	自作	

詰將棋づくし

第一番

九八七六五四三二一

持駒 金金桂香

第二番

九八七六五四三二一

持駒 飛桂歩

第三番

九八七六五四三二一

持駒 飛飛

第四番

九八七六五四三二一

持駒 ナシ

第五番

九 八 七 六 五 四 三 二 一

王								

持駒 飛飛金歩

第六番

九 八 七 六 五 四 三 二 一

								王

持駒 ナシ

第七番

九 八 七 六 五 四 三 二 一

持駒 桂桂桂

第八番

九 八 七 六 五 四 三 二 一

持駒 歩歩歩歩

第九番

九	八	七	六	五	四	三	二	一
王	平		皇					
		平	銀					
			角	飛	龍			
平	步	角	香					
了								

持駒 銀銀歩

(八)

第十一番

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇			香	平	と		王	皇
香			平	歩				
馬	平	歩	皇			と	銀	角
			金			と	銀	了
				飛	と	桂	平	と
平								歩
		平		皇	銀			皇
					平			
銀					桂			
金		了	歩	歩	桂	銀		

持駒 ナシ

第十番

九	八	七	六	五	四	三	二	一
						王	皇	
						歩	平	
						銀	歩	皇
						桂		

持駒 角銀桂

第十二番

九	八	七	六	五	四	三	二	一
						皇	皇	
						桂		
						歩		

持駒 銀銀

(九)

第十七番

九 八 七 六 五 四 三 二 一

				王	銀	香	飛
				角	香	香	飛
					桂	香	飛
					香	香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛

一 二 三 四 五 六 七 八 九

持駒 角桂桂步步

第十八番

九 八 七 六 五 四 三 二 一

				王	銀	香	飛
				角	香	香	飛
					桂	香	飛
					香	香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛

一 二 三 四 五 六 七 八 九

持駒 步步

第十九番

九 八 七 六 五 四 三 二 一

				王	銀	香	飛
				角	香	香	飛
					桂	香	飛
					香	香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛

一 二 三 四 五 六 七 八 九

持駒 角

第二十番

九 八 七 六 五 四 三 二 一

				王	銀	香	飛
				角	香	香	飛
					桂	香	飛
					香	香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛
						香	飛

一 二 三 四 五 六 七 八 九

持駒 角

第二十一番

持駒 步步步步

第二十三番

持駒 角角金金

第二十二番

持駒 金步

第二十四番

持駒 角銀銀銀桂桂

第二十九番

持駒 飛角歩歩

第三十一番

持駒 金歩

第三十番

持駒 ナシ

第三十二番

持駒 金金金金

第三十三番

持駒 ナシ

自作の部

第一番

持駒 飛歩

第二番

持駒 桂歩歩

第七番

九八七六五四三二一

一									
二		王							
三									
四									
五									
六									
七									
八									
九									

持駒 銀歩歩

第九番

九八七六五四三二一

一									
二									
三									
四									
五									
六									
七									
八									
九									

持駒 ナシ

第八番

九八七六五四三二一

一									
二									
三									
四									
五									
六									
七									
八									
九									

持駒 角桂

第十番

九八七六五四三二一

一									
二									
三									
四									
五									
六									
七									
八									
九									

持駒 金銀桂歩

第十一番

										一
								銀	王	二
								銀	王	三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 飛桂桂香步

(廿六)

第十二番

										一
								角	王	二
								王	王	三
								步	王	四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂桂

第十三番

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂步

第十四番

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 步

(廿七)

第十九番

持駒 金桂桂香

第二十番

持駒 步

第二十一番

持駒 桂

第二十二番

持駒 香香步步

第二十三番

持駒 歩歩歩歩

(廿二)

第二十四番

持駒 桂桂桂歩歩

第二十五番

持駒 桂桂桂

(廿三)

作品解答

第一番

岡田秋霞作

五五香 四二玉 四一金 三二玉
 四四桂 同歩 四三龍 二二玉
 三二金 一一玉 二二金 同玉
 四二龍 三二金合 同龍 同玉
 四三角 同玉 四二金迄十九手

第二番

同

六二飛 八三玉 八四歩 同角
 同銀 七四玉 七五銀 八三玉
 七四角 九三玉 八四銀 同玉
 七六桂 九三玉 八三角成 同玉

答

七五桂 九三玉 八二飛成 同玉
 八五香 七一玉 八三桂打 七二玉
 六四桂 八二玉 九一桂 同玉
 九二香 同玉 八三桂成 九一玉
 八二成桂迄 三十三手

第三番

同

二七飛 同角成 二三飛 一二玉
 二七飛成 四五銀 二三角 二二玉
 四五角成 二四角合 二三銀 三三玉
 三六龍 三五桂合 三四馬 四二玉
 四五龍 五三玉 四四龍 六二玉

六四龍	七二玉	四五馬	八三玉
五六馬	八二玉	八四龍	七一玉
七三龍	七二飛合	六三桂	八一玉
九二馬	同玉	七二龍	八二金
九四飛	九三角合	八四桂	九一玉
九三飛成	同金	八二角迄	四十三手

■第四番

二一步成	同玉	三一と	同玉
四三桂	二二玉	三一桂	同玉
四一步	二二玉	九八馬	一一玉
八八馬	二二玉	八七馬	一一玉
七七馬	二二玉	七六馬	一一玉
六六馬	二二玉	六五馬	一一玉
五五馬	二二玉	五四馬	一一玉
四四馬	二二玉	四三馬	三二步合

同

同馬	同玉	一二龍	三三玉
一三龍	三四玉	一四龍	三五玉
一五龍	三六玉	一六龍	二六步合
二七金	三五玉	二六金	二四玉
二五金	二三玉	一四龍	三二玉
三三歩	二一玉	三一と	同玉
一一龍	二一步合	四一桂	同金
同香成	同玉	二一龍	五二玉
五一龍	六三玉	七四金	七二玉
七三歩	八二玉	八三歩	九三玉
九一龍	九二金合	同龍	同玉
八二歩成	同玉	九四桂	九三玉
八四金打	九二玉	八三金	九一玉
八二金迄	八十五手		

■第五番

六一飛	(1)七一桂合	九一飛	同玉
七一飛成	九二玉	七二龍	九三玉
七三龍	九四玉	七四龍	九五玉
七五龍	(2)九六玉	七六龍	(3)八六步合
八七金	九五玉	八六金	九四玉
八五金	八三玉	七四龍	(4)九二玉
九三歩	八一玉	八二歩	同玉
九四桂	八一玉	九二歩成	同玉
七二龍	九三玉	八二龍迄	卅五手

變化

(1)イ、七一歩合なら八三飛八二角合(八二歩合なら七一飛成同玉七三飛成以下容易)七二金同玉六三飛引成八一玉八二飛成同玉六四角九二玉九三歩八一玉八三龍迄

ロ、九二玉なら九一飛打八三玉六三飛成七三歩合七四金八二玉九三飛成八一玉(同玉なら七三龍以下容易)八二歩七二玉九一龍迄

(2)八五歩合なら八六金九四玉八五金八三玉八四金八二玉八三歩八一玉九三桂九一玉七一龍九二玉八二龍迄

(3)イ、九七玉なら八七金九八玉七八龍九九玉八八龍迄

ロ、八六桂合なら八七金九五玉八六金八四玉八五金八三玉(九三玉なら七三龍以下容易)七四龍九二玉(八二玉なら九四桂八一玉九三桂九二玉七二龍九三玉八二龍迄)八四桂九三玉(九一玉なら七一龍八一合八三桂迄)九四歩八二玉七二龍九一玉九二龍迄

(4) 八二玉なら八三步八一玉九三桂九二玉七二龍九三玉八二龍迄

解説

本作は作者苦心の會心作で將棋月報の拙稿「特選詰將棋」に紹介發表し「圖研會々員詰將棋創作集」にも集録してありますが、本作の特長はその複雑性にあるので上記圖式には變化が記入してないのでこゝに再録した次第であります。

裸王の作品は東京太郎氏によつて月報誌上に紹介されたことがありますがい下之を列擧すると相馬駒二作一一玉の圖、持駒飛角金桂、伊藤看壽作一一玉の圖、持駒飛角金銀河村古僊作、五一玉の圖、持駒飛角金銀桂、松本明雅翁作

三一玉の圖、持駒飛角金銀桂と本局で都合五つですが明雅翁のは不完全なので四作となり、本作はこの中でも第一に位する内容を持つて居ると思ひます。裸王の圖には未だぐ、開拓の餘地が澤山残つて居るやうですから、此の際實力家の奮起を望む次第です。以前斯界の熱心家麻植長三郎氏が曲詰課題として裸王作品を募集された事がありましたたが不成功に終つたのは限られた期間で作るには餘りに困難な課題であつた爲と思ひます。

第六番 同

一八龍 二一玉 二七龍 一一玉
一六龍 二一玉 二五龍 一一玉

一四龍 二一玉 二三龍 一一玉
一三龍 二一玉 三二香成 同玉
四四桂 二一玉 二四龍 一一玉
一五龍 二一玉 二六龍 一一玉
一七龍 二一玉 二七龍 一一玉
一八龍 二一玉 二九飛 同角成
同龍 二八桂成 同龍 同角成
三三桂 一一玉 二二角 同玉
二三桂成 一一玉 二一桂 同玉
三二桂成 一一玉 二二成桂迄四十七手

解説

本作は著者が懸賞募集した「龍の縦の鋸引を執り入れた作品」の應募作で締切後發表した爲著者の解説も誌友の鑑評もなかつたので眞値が公認されませんでした。應募作中隨一の作で作者

の數多い名作中でも裸王四桂三段跳と共に傑作中の傑作たる作品であります。本作は桂以外の駒を手に入れて王を一にか二二へ引出す事が出来れば二三桂成一一玉一二歩二一玉三二桂成で簡単に詰む形なのです。この含みの下に第一着手は始められるのですが玉方は其の手には乗らぬと軽く二一へかわす故です。こゝでウツカリ一二へ合駒などをすると同龍と切られ、上記の注文にはまつてしまふ、詰方は然らばと二七へ龍をさざみ上げると一一玉とあつさりすかさされてしまふ、然らばこゝで二四歩合としたらどうかと云ふと、其の時は同龍同桂三一桂成一一玉一二歩同玉二三桂成一一玉二一成桂同玉三二香

成一玉二金迄である。以下鋸引で龍を一三へ持つて行けば三二香成として四四桂の形にすることが出来るのである。即ち龍はこの手順を作る爲に遙々援護射撃に一三迄出張したのであるから任務が終れば再び出發点に後退して次の任務に待期する故である。では何故龍が一三に居なければならぬかと云ふと、四四桂の時四二玉と逃げた時三三龍と寄つて王が四四から脱出するのを防ぐ爲である。五三桂なら五一桂成六二玉六一成桂同玉七二銀以下詰み。扱て第二段の攻撃は如何なる法方によつて開始されるかと云ふと二九飛の派手な棄て駒によつてとある。相棒の貴い犠牲によつて始めて駒を手にす

る事が出来た故であるが、それなら二手目二一玉の時に二九飛とすればワザ々長い手数を書きなくても同じやうに思はれるが、これでは同角成同龍の時二八歩合とされて詰まないものである。廿三手目の二九龍の時では二八へ歩の合をしても三二角一一玉一八龍一二歩合同龍同玉二三角成一玉二二歩二一玉三二桂成迄で詰まされてしまふ、この方が本手順より二手早く詰むから二八桂成とするのが最善の應手となる故である。同龍同角と拂はれて主役の龍もこゝに任務を完了し角桂に後事を託して散華した。つまり飛車二枚を棄て角桂を得て詰めることになるがこの二つの駒を使へば頭記の手順を作る事が

出来るから遂に大團圓となるのである。以上物語り風の記述によつて読者は盤面なしで本作を十分味はふ事が出来たと恩考する次第であります。元來鋸引は往復の場合には王から次第に遠ざかつて質駒を手に入れて再び戻つて来るのが常套手段であるが本作はこの逆を行つて新機軸を出して居るのが最大の特長である。作者もこの点を念をされて居たから自信の程が伺はれる故です

第七番 同

八六角 八八玉 九七角 同玉
 九三飛成 同歩 五三角成 九八玉
 九三龍 八八玉 九七馬 七七玉

第八番 同

一八金 同玉 一九歩 二九玉
 二八金 一九玉 二九金 同玉

七八歩 六七玉 五九桂 五七玉
 七九馬 同と 九七龍 七七桂合
 同龍 同歩成 四九桂 四六玉
 三八桂 三六玉 四八桂 二五玉
 三七桂 三五玉 四七桂 二四玉
 三六桂 一四玉 二三銀 一三玉
 一四香 二三玉 三四銀成 同玉
 四四金 二三玉 三五桂 一四玉
 二六桂 一三玉 二五桂 一二玉
 二四桂 二一玉 二二銀成 同玉
 三四桂 二一玉 一三桂 三一玉
 二三桂迄 五十七手

八二金	一八玉	一九步	同玉
八三金	二九玉	七三金	一八玉
一九步	同玉	七四金	二九玉
六四金	一八玉	一九步	同玉
六五金	二九玉	五五金	一八玉
一九步	同玉	五六金	二九玉
五七金	一八玉	二七銀	同玉
三七角成	一六玉	三八馬引	二五玉
四七馬上	三五玉	四六馬左	四四玉
五五馬	五三玉	六四馬	五二玉
四二成香	六一玉	五三桂	七一玉
八二馬	六二玉	七三馬引	五三玉
六四馬行	四四玉	六二馬	三三玉
四三成香	同玉	五三馬引	三三玉
五五馬	三二玉	五四馬行	四一玉
三一馬	同玉	二一銀成	四一玉

三一飛	五二玉	五三步	六二玉
三二飛成	七三玉	七二龍	八四玉
八五步	同玉	六三馬	八六玉
八三龍	七六玉	八五龍	七七玉
八七龍	六八玉	五八金	同玉
五七龍	六九玉	三六馬	七八玉
八七龍	六八玉	五九銀	同玉
五七龍	四九玉	二七馬	三九玉
五九龍迄	百五手		

第九番

佐藤千文作

九二銀	同玉	七四角	同銀
九三銀	同玉	七五角成	同銀
九四步	九二玉	九三步成	同玉
九四銀	九二玉	八三銀成	九一玉
九四飛	同龍	九二步	同龍

同成銀 同玉 九三步 同玉
 八三飛 九四玉 八五飛成 九三玉
 八三龍迄 廿九手

第十番

同

三一角	同玉	二三桂	同金
四二角	二二玉	二三步成	同銀
二四角成	三二角合	三一銀	同玉
四二金	二二玉	三二金	同銀
三一角	同玉	四二馬	二二玉
三二馬	一三玉	二五桂	二四玉
三三銀	二五玉	一四馬	二六玉
二二龍	一七玉	二八銀	一八玉
二七龍	二九玉	三八龍	一八玉
三七銀	一九玉	二八龍迄	三十九手

第十一番

同

(王の周邊廻り入選作)

二二と	同玉	一三桂成	同香
三二と	一一玉	二二と	同玉
五二飛成	同金	二三銀生	一一玉
六六馬	三三歩合	同馬	同桂
一二歩	二二玉	三三銀生	一二玉
二三角成	一一玉	三三馬	二二飛合
二三桂	一二玉	二二馬	同玉
二一飛	三二玉	三一桂成	四二玉
二二飛成	五一玉	六一香成	同玉
七二歩成	同玉	五二龍	六二飛合
七三金	八一玉	九一香成	同玉
九四香	九二桂合	同香成	同飛
同龍	同玉	七二飛	九三玉
八二飛成	八四玉	七四金	八五玉

千万喜君の作とその雌雄を争つたが
その決定を前に廿四才を一期に早逝
されたのは惜しみても餘りある

第十二番 佐藤千万喜作

七二飛	同金	八二銀	同金
八四銀	同歩	六四金	同歩
八二角成	六三玉	六四馬	五二玉
六二桂成	同玉	六三金	七一玉
七二歩	八一玉	九一香成迄十九手	
七一龍	八一桂	八二龍	同角

第十三番 同

九二金	七一玉	八二金寄	同玉
七四桂	九一玉	九二金	同玉
七二飛成	八二桂	八四桂	九一玉
七一龍	八一桂	八二龍	同角

八三龍	九六玉	九七歩	同玉
九八金	同玉	九九歩	同玉
八八銀	八九玉	七七銀	七八玉
八八龍	六九玉	五八銀	五九玉
四八銀	同玉	五七銀	三九玉
四八龍	二九玉	三九金	一九玉
一八と	同玉	二七歩	同玉
二八金	一六玉	一七歩	二五玉
三七桂	一四玉	二四金	同玉
三四と	一四玉	二四と	同玉
四四龍	二三玉	三四龍	一二玉
二四桂	一一玉	二一成桂	同玉
三二龍	一一玉	一二龍迄百七手	

註一本作は著者が懸賞募集した、王の
周邊廻り(四隅を通つて一週、周邊
にそふ必要はない)應募作で令弟の

同桂成	同玉	六四角	七一玉
五三角成	六二金	七二歩	六一玉
四三角	五二歩	七二歩成	同玉
六二馬	同玉	七二金	五一玉
六三桂	四二玉	三二角成	五三玉
五四馬	四二玉	三二と迄三十九手	

第十四番 同

(玉の周邊廻り入賞作)

二一金	同玉	三二金	同金
同銀成	同玉	三三金	四一玉
四二金	同玉	三三歩成	四一玉
五三桂	五二玉	四三と	六二玉
六一桂成	同玉	六二銀	七二玉
七三歩成	八一玉	九一歩成	同玉
八二と	同玉	五五馬	九三玉

八二馬	同玉	三七角	九三玉
八二角成	同玉	七三銀打	九三玉
八五桂	九四玉	九三飛	八五玉
八三飛成	九六玉	九七歩	同玉
九九香	九八角合	同香	同玉
三八龍	五八角合	同龍	同銀成
八九角	九九玉	八八角	八九玉
七七角	七九玉	八八龍	六九玉
六八金	五九玉	五八金	四九玉
五九金	三九玉	四八龍	二九玉
三八銀	一九玉	三九龍	一八玉
二九銀	二七玉	二八銀	二六玉
三七龍	一五玉	三五龍	一四玉
一五歩	一三玉	二五桂	二二玉
六五歩	七七歩成	一四桂	同香
一三桂成	同玉	一四歩	二二玉

三二龍 一〇〇玉 一二香迄九十五手

第十五番 岩木錦太郎作

八九桂 八六玉 七五銀 同馬
七六飛 同馬 七八桂 七五玉
六七桂 同馬 八六金 七四玉
六六桂 同馬 八四と 同馬
六六桂 同馬 八五金迄十九手

鑑評

形と云ひ四桂を用ひての趣向と云ひ紛れ變化と申し分なく、置駒の數より手数も長く、固定駒も少く傑作たるの體條件を完備して居ます。序順に就いて見ても玉方七六馬の守備効を弱めるため七八桂打を含みとしての七五銀、七六飛捨ては關連妙手にて詰將棋の妙味を

遺憾なく發揮して居ります。殊に後者は絶妙手と云ふに躊躇はいりません。普通ならば右二手を取り入れれば満悦して了ふ所だが、それに慊らず尙六七桂打六六桂跳びの二好手を加へた所等最後迄隙のない仕上げぶりは作者の非凡さを物語つて居ます。

第十六番 同

六三銀左 六五玉 七四銀 同玉
六三銀 六五玉 七四銀 同玉
六五金 同玉 五五と 同玉
四五金 同玉 七二角生 四四玉
四五金 同桂 三四銀成 同玉
六一角生 三三玉 四三角右成 二二玉
三四馬 三二玉 四三角生 四二玉

五二桂 三一玉 四一成桂 同玉
五三桂 三一玉 三二步 四二玉
五二角成 三二玉 四一馬迄三十九手

第十七番 杉本兼秋作

一三桂 同飛 二二銀 同玉
三四桂 同金 二三步 二二玉
五四角打 同香 三一と 同玉
一三角成 同香 二二步成 同玉
七二飛 同歩 二三步 三一玉
二一飛 四二玉 四三金 五一玉
四一飛成 六二玉 五三金 同玉
四三龍 六二玉 六三銀 七一玉
七二銀成 同玉 七三步成 七一玉
七二步 六一玉 六三龍 五一玉
六二と 四一玉 五二龍 三一玉

二二步迄四十五手

第十八番 同

三一金 同玉 二二步成 同玉
七二飛生 三二角合 一三香成 同玉
二三金 同角 同桂成 一四玉
二四飛 同金 同成桂 同玉
三五角 三四玉 二四金 四三玉
七三飛生 三二玉 三三飛生 二二玉
二二步 同玉 二三飛成 三一玉
五三角成 四二角合 三二步 同銀
同龍 同玉 三三歩 同角
同金 同玉 四二角 二三玉
三四銀 一四玉 一五歩 一三玉
三五馬 二二玉 三三銀成 二二玉
三一角成 同玉 五三馬 二二玉

四三馬 三一玉 三二馬迄五十五手

第十九番 大橋虛士作

三三步成同桂 二三桂成同玉
三四角打三二玉 四二香成同銀引
二三銀 二一玉 三一角成同玉
一銀打同香 同銀生三二玉
二三銀成二一玉 二三香成同銀
同成銀 同玉 一三步成同玉
二四銀 二二玉 二三銀成三一玉
三二銀打四二玉 五二桂成三十一手

第二十番 同

七一角 四二玉 五二桂 同玉
六三銀成同角 六二桂 五三玉
六一成桂 五二玉 六二角成 四二玉

四六飛 四五步合同飛 同角
五一馬 五三玉 五四步 同角
六二馬 四二玉 四三步 同角
五一馬 五三玉 四三銀成同玉
五二角 五三玉 六三角成同玉
六二馬迄三十三手

第二十一番 三上毅作

二五角成同玉 一四龍 二六玉
三七銀 同玉 四七金寄 二六玉
二七步 三五玉 三六步 同銀
同金 同玉 三四龍 三五桂合
三七步 四六玉 四七銀 三七玉
三五龍 二七玉 三八銀 一七玉
三七龍 一六玉 二七銀 一五玉
二六銀 一四玉 三四龍 二四桂合

二五銀 一五玉 二四龍 二六玉
三六銀 同玉 四八桂 三七玉
二八金 四六玉 四七步 四五玉
三七桂迄四十五手

第二十二番 佐賀聖一作

三五角成一二玉 一三步 同桂
二四桂 同步 三四馬 二三飛合
二二金 同馬 同と 同玉
二三馬 同玉 五三飛 一二玉
三四角 二一玉 四三角成 一二玉
三四馬 二一玉 五一飛成 三一角合
二二步 同玉 三三馬 二一玉
一一馬 同玉 三一龍 二一香合
四四角 一二玉 二一龍 同玉
二三香 三一玉 二二香成 四一玉

第二十三番 內藤武雄作

三二成香同玉 三三桂成 三一玉
五三角成 二一玉 二三香 一二玉
二二香成 四十九手
二三角 五一玉 七三角 六二飛上
四二金 六一玉 五二金 同飛
六二金 同飛 同角成 同玉
九二飛打 七三玉 九三飛成 六四玉
五三龍 五五玉 四六金 同香
四五角成 六六玉 六七馬 五五玉
六四銀迄二十五手

第二十四番 佐藤千明作

二四桂 同飛 二一銀 同玉
三三桂 二二玉 一一銀 同玉

四一飛成 三一銀合 一二銀 同玉
 二二角 一一玉 一二銀 二二玉
 三二角成 同銀 二一桂 三三玉
 四三金 三四玉 三二龍 二五玉
 三六龍 一五玉 一六銀 一四玉
 二三銀 同玉 三三龍 一二玉
 二二成桂 同飛 同龍 同玉
 四二飛 二三玉 三二飛成 一四玉
 一五步 二四玉 三三龍迄四十三手

第二十五番

村山隆治作

三九銀 同香成 三七角 一七玉
 一六金 同桂 二六角 二八玉
 三七角 一七玉 二九桂 同成香
 二六角 二八玉 三七馬 三九玉
 四八馬 二八玉 三七角 一七玉

二六龍 同飛 同角 二八玉
 三七馬 三九玉 四九飛 同玉
 四八馬迄二十九手

第二十六番

吉田一步作

九四飛 同玉 六一角 同金
 八四金 九五玉 七四金 八六玉
 九五角成 同玉 八四銀 八六玉
 八七香 同金 同步 同金
 九七金 七六玉 七五金迄十九手

第二十七番

廣瀬善一作

一角成 同玉 二二銀打 一二玉
 二一銀打 同角 二四桂 同步
 二一銀 一一玉 二二銀成 同玉
 二三香 同玉 四一角 二二玉

三二角成 一一玉 三三馬 二二金合
 一二步 二二玉 三二銀成 同金
 一一步成 三一玉 四一桂 同玉
 五一步成 三一玉 四一と 同玉
 五二金 三一玉 四二金 同金
 四三桂 同金 三二步 四一玉
 五一と迄四十一手

第二十八番

麻植長三郎作

七一銀 九二玉 九三步 同桂
 八一銀 同玉 六二銀成 九二玉
 八一龍 同玉 七二成銀 同玉
 六三金行 同玉 五四角成 同玉
 四四と 六五玉 七五角成 五五玉
 六六馬 四六玉 二六龍 同と
 五七馬 五五玉 五四金 六五玉

五六馬迄二十九手

第二十九番

小田内孝作

六一飛 同玉 五一と 同玉
 四一飛 六二玉 六三步 同玉
 五二角 同玉 四三飛成 六二玉
 六三步 六一玉 七一と 同玉
 六二步成 八一玉 七二と 九一玉
 四一龍 九二玉 八一龍 九三玉
 八二龍 九四玉 九五步 同玉
 八六龍 九四玉 九五步 九三玉
 八二龍迄三十三手

第三十番

千葉勝美作

二八銀 同玉 一七角 一八玉
 三五角 二八玉 一七角 一八玉

四四角	二八玉	一七角	一八玉
三八飛	二八と引	同角	二九玉
三九金	同と	同飛	同香成
一九飛成	三八玉	三九龍	四七玉
四八步	五八玉	五九龍	六七玉
六八龍	七六玉	七七龍	八五玉
八六龍	九四玉	八三銀	同金
同龍	同玉	八四金	九二玉
九三步	八一玉	八三歩	同玉
八三步	八一玉	九二桂歩	同玉
九四香	八一玉	八二歩成	同玉
七三金	八一玉	七一步成	同玉
六一桂成	八一玉	七一成桂	同玉
一七角	八一玉	七二金	同玉
六二角右成	八一玉	八二歩	同玉
七三角成	八一玉	七二馬迄七十一手	

第三十一番

雪嶋彬作

七三桂成	同馬	八三金	七一玉
六三桂	同馬	六一角成	同玉
六三龍	五一玉	七三角	四二玉
三三銀	三一玉	六一龍	四一步合
六四角成	五三香合	同馬	同歩
三二歩	二一玉	二七香	二五桂合
同香	二三銀合	同香	一二玉
二二香成	一三玉	二四銀打	一四玉
二六桂	二五玉	六五龍	一六玉
一五龍	二七玉	一七龍	三六玉
三七龍	四五玉	三四龍	五五玉
四四龍	六五玉	七七桂	七五玉
五五龍	八六玉	八五龍	九七玉
九八歩	同玉	八九銀	九七玉
八八龍	九六玉	九七歩	九五玉

八五龍迄六十一手

第三十二番

伊藤留次郎作

三四金	同玉	三五金	三三玉
四五桂	二二玉	三三金	一三玉
二四金行	同玉	三四金引	一三玉
三五角成	一二玉	二三金	同玉
三三金	一二玉	三四馬	二一玉
四三馬	一二玉	三四馬	二一玉
二二歩	三一玉	三二歩	四一玉
五三桂生	五一玉	六一馬迄三十一手	

第三十三番

鴨下幸吉作

二三銀成	同玉	二四飛	三二玉
二二飛成	四三玉	四二龍	五四玉
五三龍	六五玉	六四龍	五六玉

四八桂	四六玉	四四龍	三七玉
四七龍	二六玉	三五銀	同玉
五三角成	二四玉	三六桂	二三玉
三三桂成	同玉	四二龍	三四玉
四四馬	二五玉	二二龍	三六玉
二六龍	四七玉	五七金	同玉
三五馬	六七玉	六八歩	七八玉
七六龍	八九玉	七八角	同龍
同龍	同玉	七三飛	八八玉
四四馬	八九玉	四五馬	八八玉
五五馬	八九玉	五六馬	八八玉
六六馬	八九玉	六七馬	八八玉
七七飛成	九九玉	七九龍迄六十三手	

【自作】

第一番 ならず第九番飛不成

三一飛	二二玉	三二飛生	二二玉
三四飛成	一二玉	一四龍	二二玉
二二步	同玉	一三桂成	一一玉
一二成桂迄十三手			

註―將棋世界一部發表

第二番

一七步	二六玉	二七步	一五玉
二四銀	二五玉	二六步	同玉
一五銀	同玉	二七桂	二五玉
三五馬	一四玉	一三と迄十五手	

註―將棋世界課題發表

選後評

塚田八段

有馬氏のは形も整つて居り軽快な手順

に終始して居る、佳作と云へよう。

第三番

八四桂	九三玉	八二銀	同玉
七二金	同銀	同桂成	同玉
八三銀	七三玉	六二銀	同玉
六三金	六一玉	七二銀成	五一玉
五二金迄十七手			

解説

村山隆治

「盤上只三個の駒を斜め一直線に置いた簡素な形。然しそれに盛られて居る手順の含みは仲々味合が多い作。特に八三銀打などは一寸敵將を大海へ追ひ出すようで實戦では迎も打てない手。然して八三銀に關聯しての六二銀捨ても見逃す事の出来ぬ妙手。九三銀同玉八四銀同銀として十三手で

詰めて居られる方がありましたが、同玉と取られて詰みません。

短評

小泉都氏「八三銀六二銀は好手、涼味ある作品也」

澤田和佐氏「最初の形が簡單、然も美麗、即ち「簡素の美」を有して居る上に詰手順も相當長く、八三銀及び六二銀捨ての好手もあり佳局と思ひます」

雪島牛歩氏「大海脱出をおそれ、六三より打込みを策するも成功せず。逆を行つた八三銀の一手は誠に意外也」

鴨下幸吉氏「初めの趣向と云ひ、八三銀六二銀等の意表をついた軽手と云ひ、全く小品珠玉と申しても過言ではないでせう」

榎本桂一氏「金言「玉は片隅へ追ふ可し」の逆を行く八三銀打は軽手にして皮肉

味タップリ」

第四番

二四銀	同龍	二三金	同龍
二二銀	同龍	一四步	同玉
一五金	一三玉	二五桂	同龍
一四步	同龍	同金	同玉
一五飛迄十七手			

註―將棋世界一部發表

第五番 ならず第十番角不成

七三角	二八步	同角成	同玉
七三角イ三七桂合	同角生	一八玉	
一九步	二七玉	三九桂	同步成
二八步	三八玉	四七龍	四九玉
五九銀迄十七手			

變化

イ四六歩の中合は同角成三七桂合同銀一八玉一九歩同玉(三九玉は五七馬)二八銀一八玉一九銀二七玉二八馬迄
また六四或は五五桂合は同角不成一八玉一九歩二七玉三九桂同歩成二八歩三八玉三六龍以下

解説

塚田八段

本題は入玉形作物であるが、却々面白い詰手順に終始して居る。第一着手七三角は古作物によくある遠角の手筋で玉方桂合が出来ない(一段目の桂香歩二段目の桂等行所のない駒は打てない)故に歩合の一手、同角成同玉七三角と再度遠角を利かす、玉方桂以外の合駒は同角成で詰となるから三七桂合とした時、同角成では一八玉で歩詰を招来するから同角不成と行くのが好手で歩詰を避ける常套手段である。以下一八玉一九歩二七玉と追ひ、こゝで三九桂

と捨駒を發見すれば以下容易な追詰で、五九銀のあき王手で見事に詰上る。遠角に對する合駒の綾は面白く良作と推賞するに足る。

第六番

對照圖

四二銀 イ同 飛 四三桂 同 飛
六一角成 同 玉 四三角成 ロ五二香合
七一飛 六二玉 四四馬 五三香
五四桂 五二玉 七二飛成 五一玉
四二桂成迄十七手

變化

イ同玉は四三桂成五一玉五二成桂同玉
六二飛五三玉五四角左成六二玉六三馬六一玉四三角成五一玉五二馬迄
ロ七二玉は七二飛六二玉五四桂迄

六二玉は六三飛七二玉六一馬迄

解説

里見義舜

本局は曲詰である、初手四二銀と捨て同飛に四三桂として六一角成は巧妙な順である。玉方五二香合の時七一飛打は平凡乍ら好手で、一見五三桂と打ちたいが六二玉で詰なく、一寸間違ひ易い所です。六二玉に四四馬は本局の主眼手で五三香上る一手、以下五四桂打以下で終る。佳作と思ふ。

評曰

近藤二桂氏「玉座より出で玉座に收る、左右同型、趣向詰と思ひます。」

第七番

七三步 六一玉 五二銀 七一玉
七二歩成 同 玉 六三角成 七一玉

變化

五三角成 八二玉 六四馬右イ七一玉
七二歩 八一玉 八二歩 同 銀
七一步成 同 玉 五三馬上ル迄十九手

評曰

イ八三玉は七三馬上ル九四玉七二馬右九三玉八三馬迄

榎本桂一氏「型はスッキリして居ますが、期待した手順に大した妙手なく、ガツカリしました」
宮越宗太郎氏「形、駒繰り面白き作」
近藤二桂氏「九一銀の姿を變へて作解せし趣向面白し」
水戸光夫氏「作者としては珍らしく癖(陥穽)のなき軽い作品である」
作者曰く「圖柄に一寸氣を引かれると云ふ程度の初心向平凡作鎖夏納涼出題

でした

第八番

一角成同玉 四四角 三三歩合
 同角成 二二飛合 二三桂 二一玉
 三一桂成同玉 四二歩成同香
 三二歩 二一玉 一三桂 一一玉
 二二馬 同玉 二一飛迄十九手

解説 岩木錦太郎

三三歩合の所三三桂合だと同角成二二飛合二三桂二一玉一三桂迄。又三三歩中合をせず直に二二角或は銀合なれば二三桂二一玉三一香成同角同桂成同玉二二角以下容易です。
 本局は形は小さいが四四角の時の中合は面白いと思ひます。皆さんの評も總じて纏りのある好局とあり、之を艦艇

に譬へるなら近頃流行りの快速艇と云つた所でせう。
 評者は小ぢんまりした輕快さを買ひます

短評

吉田一歩氏「四四角三三歩中合、小氣味良し」
 福泉善一氏「手順平易なれど棄て難し」
 鳴下幸吉氏「少ない駒で手際よく仕上げてあるのには感服しました。但し難解さに乏しい憾みがある」
 安田辰次郎氏「三三歩中合二二飛合は妙なる俗手と云ふ可し」
 神野孚氏「手数短かきも三三の合駒手廣く苦心致しました」

作者曰く

大道棋の如き感ある爲、一部の方には俗品と見られた爲か辛い点を戴きました。鑑賞室向としては少し齒答へがな

かつたかも知れませんが夏の課題にはコンナのも一つはあつてもよいと思ひます

解答者採点表

伊藤留次郎	○40点	仲川彌一郎	×
鳴下幸吉	○	柴田龍彦	○
雪島牛歩	○75	福泉善一	○80
菟集生	○40	安田銀波	○72
佐賀聖一	○80	亀井昭造	○
大迎松平	○76	高三理一	×
近藤二桂	○80	並木武二	○78
松村幸兵衛	○95	鈴木木賢	×
吉田一歩	○80	神野孚	○80
山川隆音	×	谷津桂三郎	×

第九番

六七飛 六六桂 同飛 六三歩合
 二六角 五三歩合同銀 同龍

評曰

雪嶋氏「有馬氏の面目躍る如たるものですネ」
 鳴下氏「初心者の好課題ですが、終局四一銀成同玉四二飛五一玉六二角と延ばしても詰むのは欠点でせう」
 近藤氏「二手目六六桂は大道棋の味あり。尙玉座に追込みの鮮かな詰は同氏獨特の巧妙な作です」

第十番

大駒なし

二四銀 同香 二三金 同玉
 二四歩 一二玉 二三歩成同玉
 二四香 一二玉 一三歩 同玉

二五桂 一二玉 二三香成同玉
 三三香成 一二玉 二四桂 二二玉
 三二成香迄二十一手

解 說 佐賀聖一

高段者の新聞雜誌出題詰將棋と云つた
 ような感ぢの圖で、スラ／＼と運びし
 所は初心者の良い研究材料と思ひます。
 何か好手の欲しいような氣もします

短 評

鴨下氏「小品乍ら洗練された作風は流
 石なり」

佐藤千万喜氏「駒捨の綾面白く形も亦
 綺麗にして感ぢの良き作品なり
 山田進氏「駒を置替へる捨駒の妙味上
 々なり」

第十一番

一五香イ一四歩合同 香 一三步合

二四桂 同歩 二二飛 一一玉
 二三桂 同龍 一二歩 同龍
 同飛 同玉 三二飛 二二玉
 二二銀成 一四玉 一五歩 二五玉
 三五飛成迄廿一手

變 化

イ一四桂合は同香一三步合以下本手順
 と同ぢで十五手目三二飛の所を二二
 飛打一玉二三桂迄

鑑 評

阿部吉藏

本局一見するに恰も大道棋のやうに感
 ずる、夫れは一五香と打ち一三步と打
 たせ玉の脱出を止め二二で敵飛を取り
 裸玉となる型が直感出来るからである。
 然るにこの裸玉に對し四四角出や二枚
 飛車二枚桂の持駒で問題にならないと
 思ふた評者には詰が見出せないのに驚

いたのである。
 結局本手順の二四桂打から二三桂と打
 ち龍に取らし打歩詰を消すあたり輕妙
 であり、八個の置駒に二十手をこえる
 手順は明かなる作品と云つていゝだらう

第十二番

二三桂打 二一玉 一一桂成同玉
 二三桂打 二一玉 二二歩 同飛
 一一桂成同玉 二二銀成同玉
 二四飛 一一玉 三三角成同桂
 一二歩 同玉 二三桂成 一一玉
 二二成桂迄廿一手

解 說 吉田一步

本局は有馬氏が風流桂、輕妙型の代表
 的の好作品です。初手二三桂打一桂
 成と一步を得て、敵飛を捕へ、二四飛

を狙つての一一桂成は快心の筋、次に
 角を切りての終束鮮かでありました

短 評

近藤氏「大道棋のくづしみたいただが捌
 きよき局です」

柴田龍彦氏「輕妙なる作です」
 作者曰く「本作は吉田氏の初心詰將棋
 讀本への出題作で桂を用ひての作の中
 の一つです。稍平易に失しますが作者
 好みの型です」

第十三番

九八桂 八五玉 八六歩 八四玉
 八三馬引 九五玉 九六歩 同玉
 七四馬引 八七玉 六五馬上 同金
 同馬イ七六銀合 同馬 同歩
 八八銀 九六玉 九七銀 九五玉

八五金迄二十一手

解 説 佐賀聖一

初手九八桂の處を七八桂なら十四手目
七六銀合を角合として不詰ですし五手
目八三馬を馬上ると行く十一手目六
五馬の時同金の所を合駒でもされると
矢張不詰となります。
このような紛れが多かつた爲か、前局
程ではなかつたですが誤解が相當あり
ました。一寸大道棋のような味があつ
て有馬さんの作風がよく現はれてゐる
のではないかと思ひます。

變化

イ角合は同馬同香七八角迄又桂合は八
八金九六玉七四馬九五玉八五馬迄

短評

三好鉄夫氏「最初七八桂と打つと終局
七六角合で不詰となりますが、此の方

す。八三飛と一回をらしに處に本局の
綾があります。初手どちらに桂を成ら
すかに依つて分れてしまふと云つた、
一寸大道棋的作品

短評

雪嶋氏「八三飛と同型を外したところ
に曲物ぶりがあり趣向家有馬氏の面目
が躍つて居る」

水戸氏「左右同型にて、左飛の位置が
一寸ずれて居る爲に生ずる綾が面白い」
澤田氏「有馬氏獨特の趣向型、慾を云
へば八三飛が七三飛ならもつと好んだ
が。不動駒なく手順も輕妙」

第十五番

- 三四歩 一二二玉 四四角 同 香
- 三三歩成 同 玉 三五香 イ三四桂合
- 同 香 一二二玉 三一銀 二二玉

を本手順に採入れられた方が一層良い
と感ちました」
一色孝仁氏「最初七八桂では變化手順
になつた時詰みません。何んでもない
ようで油断のならぬ作です」

第十四番

- 四一桂成 同 玉 四二歩成 同 銀
- 三二金 五一玉 六二歩成 同 金
- 四二金 六一玉 五二銀 七二玉
- 六三飛右成 同金 同飛成 八二玉
- 九三金 九一玉 九二歩 八一玉
- 八三龍 八二歩合 九一歩成 同 玉
- 九二金迄廿五手

解 説

村山龍雪

例によりまして有馬さんの作品には趣
向的傾向を多分に含んだものが多いで

- 三二香成 同 玉 四二と 三三玉
- 二五桂 二四玉 一三桂成 三三玉
- 二三香成 同 桂 三四歩 二四玉
- 一四成桂迄二十五手

變化

イ二二玉は三四桂三三玉四二桂成三
四合四三銀成二二玉三二成桂迄

解 説

佐賀聖一

三五香の時、三四桂合とするのが本局
の山であり、作者の趣向なのでせうが
解答者は有馬さんの作と見て注意した
か、餘りひつかかりませんでした、が
然し峠は越したと思つて安心したせい
か一三桂成三三玉の手を見落した人が
二三人居ました。

短評

水戸氏「一見平易のようであるが、中

合駒の伏線をめぐらして、相變らず作者らしき、曲者ぶりが發揮されて居る」鴨下氏「三五香打にて三四桂合をよぎなくせしめ、之を手中にしての寄せは、誠に鮮かなり久方振りに有馬氏らしい作を拜します」榎本氏「有馬氏の持味豊かな作品。小駒の捌きの中々捨て難い味がある」

作者曰く

詰方三五歩を持ち駒にして歩先、香歩の圖としたかつたのですが、二三との手がいかにも強力な爲成功しませんでした。尙出題圖とは多少の變化あり

第十六番

- 二一歩成 同 玉 三七銀 二六金合
- 二五飛 同 桂 二二歩 一二玉
- 一六香 同 金 二三金 同 玉

た悪條件を克服して居ます。二筋から一筋への綾たる二六金と、其の周邊に於る駒繰りが本局の眼目でせう。多少壁駒はあるが全体的に見て良く出来た作品です。尙四手目の二六金合を同香と取り、以下同龍二二金同龍同銀同玉の順で詰ましてある解答がありました。が此の順は詰まない筈です、御研究下さい。

鑑評

大橋虚士

初手二一歩成同玉三七銀引は之より他に手がない、こゝで敵に金合を強要する。次いで二五飛捨は一八馬を四五へ移動させる意味で稍容易ではあるが其の手段は面白い。又一六香同金二三金打と玉を誘ひ出す手は好手である。續いて二五香と走り二四桂合をさせ、以下三五桂四五馬等を経て止めをさすこ

- 二五香 イ二四桂合 三五桂 一二玉
- 四五馬 同 桂 一六香 同 龍
- 二三金 一一玉 二一歩成 同 玉
- 二二金迄廿五手

變化

イ二四歩合は同銀成三二玉三三成銀四一玉四二歩五一玉四三桂迄又一四玉なら二四銀成一五玉二七桂同金同馬一六歩合一四金迄又一二玉なら四五馬同桂一五香同龍以下本文に準じ早く詰む

解説

岩木錦太郎

本局は有馬氏の作風がよく顯れた作品です。からした趣向型作物は一旦考へ初めたが最後途中で其の目的を變更すると云ふ事は許されないので、それにも拘らず手腕家有馬氏は何時もちょうし

云ふ段取になるが、總じて此の局の主眼は四五馬にあると思ふ。即ち一八馬の處理は伏兵一九香の活動を促す爲で二重三重に邪魔駒を配置した點や、殊に一八馬の進出を可能ならしむる爲には、作者は相當苦心したのであらう事が看取される、又圖が廣範圍であるに反し、王の活動區域が狭いのは、王方より見て其の右翼陣營に不動駒のある爲ではなからうか、終局もう一手難手が欲しい。

短評

伊藤氏「本作品内には鋭い狙ひが藏されて居ますが形に多少無理があります大迎氏「重複した駒を捌いて行く手順と、直ぐ詰みさうで誤り易い点等、大變面白く思ひました」雪嶋氏「變化紛れ等相當あるが、本手

順廿五手では一寸物足りない」

解答者採点表

伊藤留次郎	○62点	近藤	二桂	○80
菟集	生○25	豊島	誠次	○85
鴨下	幸吉○50	嵯峨	俊一	○81
柴田	龍彦○78	内藤	武雄	×
大迎	松平○79	水戸	光夫	×
佐賀	聖一○95	渡邊	一桂	×
雪嶋	牛歩○70	仲川	彌一郎	×
松村幸兵衛	○70	小林	悦太郎	×
磯野	政一○80	手塚	清作	×

第十七番

ならず第十一番 玉方銀二回不成

三八飛	同銀生	二七銀打	二九玉
三九金	同銀生	二八金	同銀成
四九飛	三九飛合	三八銀	一八玉
二七銀引	同成銀	同銀	同玉

第十八番

ならず第十二番 詰方銀玉方飛不成

三四桂	同飛生	三三銀生	同飛
同角成	イ同玉	五三飛	二二玉
三二と	同玉	四三步成	二二玉
三三と	同角	同飛成	同玉
五一角	二二玉	二三歩	三二玉
四二角成	二三玉	二四銀	二二玉
三三馬	三一玉	四二香成迄廿七手	

解説

里見義舜

本局は作者有馬氏得意のならず物で、最初三四桂と一旦打つ手は妙手で、こゝ一見直に三三銀不成でも同じの如く見ゆれど、それでは二三玉二四銀引成二二玉三三成銀一三玉で詰はありません。玉方も歩詰となるように飛不成も

二八銀	一八玉	一九銀	同飛
同飛	同玉	二八銀	二九玉
三九飛	一八玉	一九飛迄廿七手	

解説

佐藤千万喜

本作は有馬氏の作風によく現れた不成を主眼とせる、興味本位の作品です。四九飛に對し三九飛合面白く、次いで三八銀は爽やかな好手と思ひます。小作品の割合に手数が長く、最後迄ゆるみなく作り上げた有馬氏はさすがと思ひます。只少々駒の配置の重々しいのが、いさゝか氣になります。

作者曰く

有馬賞出題作でしたが發表圖に誤植があつた爲誌友の評が得られなかつたのは残念でした

味であります。以下攻防共に申分なき作品と思ひます。

短評

イの所の變化は同角なれば三二飛二三玉三三飛成同玉四三步成三四玉三三と三五玉五三角成三六玉二六角成迄

鴨下氏「一月號中最も傑出した作品と存じます」

雪島氏「相當の變化あり、難解作でした」

第十九番

八二金	同角	九四香	九三角
八二桂成	同玉	七三銀	同桂
七四桂	八一玉	八二金	同角
同桂成	同玉	七四桂	八一玉

九一香成同 玉 九四香イ九二歩合
 八二角 八一玉 七一角成同 玉
 六二桂成 八一玉 七二成桂 九一玉
 八二角迄廿九手

變化

イ九三歩合は八二角八一玉七一角成同
 玉六二桂成八一玉七二成桂九二玉八
 一角九一玉九三香迄歩餘る

解説 佐賀聖一

こちんまりした駒の配置から、あつき
 りした二十九手の詰手順は巧く出来て
 居ると思ひます、

作者曰く

桂を用ひての趣向作品の一つで、難手
 妙手乏しき爲課題には向かなかつたが
 駒捌きを主眼とした鑑賞向の作品と思
 ふ、終局に疑義の点があるが長手順變

化として單なるキズと云へよう。作者
 好みの作である

第廿番

ならず第十三番 飛不成

五五龍 同 桂八三飛生イ六三角合
 五四歩 六二玉 七四桂 同 角
 五三歩成 七二玉 七三飛成同 玉
 五一馬 七二玉 六二馬 〇八一玉
 八二歩 同 金 同銀成 同 玉
 七二金 八三玉 七三馬 九三玉
 九四歩 同 玉 九五金 九三玉
 八四金迄廿九手

變化

イ七三歩合同飛不成春六三銀合五四歩
 六二玉七四桂夏同銀以下本手順と同じ

短評

大手氏「初盤の變化複雑なる爲、何れ
 を作意手順とす可きかに迷つた。
 雪島氏「妨め八三飛成六三角合で駒餘
 り詰と思つた。豈計らんや七三歩合で
 不詰であつた。桑原々々
 佐藤千万喜氏「確に難問の部に入ると
 思ふ。だが主眼とする陥穽は如何にも
 有馬氏の考へさうな非常に面白く思つた

第廿一番

二四桂 二一玉 三三桂成 一二玉
 一角成同 玉 二二成桂 同 玉
 四二飛成 三二金合 三三銀 一一玉
 四一龍 三一金打 同 龍 同 金
 二二金 同 金 同 銀成 同 玉
 四二飛成 三二飛合 三三金 一一玉

春一六二玉は五四桂右七三玉五一成以
 下早詰

夏一七三玉は五一馬七四玉八四馬六五
 玉六六馬七四玉八四銀成迄

又角銀合以外の合駒は四三と以下早詰
 〇八三玉八四馬七二玉六二と八一玉八
 二歩同金同銀同玉七二金九一玉七三
 馬迄

解説 佐賀聖一

本局八三飛不成に對し七三歩の中合は
 同飛不成以下廿九手詰となりませんが、
 とつた歩が餘るので無意味と思ひます。
 即ち六三角合又は銀合で正しいのです。
 諸氏の評又は成績表の示す如く、八題
 中の白眉と思ひます。八三飛不成は絶
 妙手で初心の方には一寸難かしかつた
 事でせう。

一二歩 同飛 同飛成 同玉
三二飛 一一玉 二二飛成迄卅一手

解説 村山隆治

大駒三枚丈の攻撃軍、しかも攻め駒は桂馬己、不詰を思はせるやうな作、本當に有馬さんだと思ひます。九分通り解けて最後の飛合に氣付かず、合駒餘るの解答がありました。今後充分御注意下さい

短評

雪島氏「三回にわたる合駒の妙あり。小品とは云へ卅一手を費し、詰上り又よし」
大手氏「詰方の邪魔駒たる二二角を捨てる爲に桂を利用して八手を費消せしむるが如き味合は作者の最も愛好する所と拜察する。九手目四三飛成の所三二金合とせず直に同歩としたがそれで

は同飛成三二飛合三三銀打以下廿一手詰の早詰となるどころ、小生危く間違ふところで、作者も人が悪いと思つた

短評

榎本氏「合駒の妙、正に巧みそのもの、作者の非凡がうかゞはれる
鳴下氏「輕快味は流石ですが、主眼となる可き妙手のないのが寂しい」

第廿二番 香先香歩の圖

八三香 七一玉 七二香 六一玉
二五角 同歩 六二歩 五一玉
五二歩 四二玉 三二歩成 五三玉
五四銀上 六四玉 五六桂 七三玉
七四歩 八三玉 八四歩 八二玉
八三歩成 同玉 八八飛 同角成
七三歩成 同玉 八五桂 八二玉

九三香成 八一玉 七三桂迄卅一手

解説 佐賀聖一

初手八三香から七二香は絶妙で一見歩で行きたい所ですが二歩となつて詰みません。正解者も一番少く本月五題中首位となるべき作品です

短評

大手氏「香二枚の打場所に新趣向を盛つた、作者一流の輕快作也」
佐藤千萬喜氏「今月の作品中最も優れて居た。實に美しい作品であつた」
中田新吉氏「初手八三香以下七二香二五角など實に素晴らしい妙手です。難局でした。」

第廿三番

ならず第十四番 玉方飛不成

四四歩 三三玉 四二銀 三二玉

四三歩成 同玉 五三馬 三二玉
四四桂 同飛生 二二歩成 同歩
三一銀成 三三玉 三四歩 同飛
同金 同玉 三五飛 二四玉
二五歩 一三玉 三三飛成 二三金上
三五馬 一一玉 二三龍 同玉
二四馬 一二玉 一三歩 一一玉
一二金迄三十三手

解説 杉本兼秋

本局四四に打つた歩を成捨て五三馬と接近する順や四四桂に對する玉方の飛不成二五歩打をつくる爲の二二歩成捨等好手多く形手順共に申分多き作品で本月作品中の主位作と思ひます

鑑評 雪嶋彬(牛歩)

打歩詰及び二歩打の禁を巧に織り込みての綾を縫ふて流れるが如く、右上隅

に駒が凝集されてゆく、詰手順詰上り共に軽快巧妙なものと思ひます。総力戦下に皮肉にも攻方の三二歩二三歩が大きな障害をなしてゐる此の隘路打開に苦心を要する。先ず一旦打つた四四歩を自爆させて第一の隘路を消滅さす。次いで四四桂に飛不成と飽く迄妨害するを、されば二二歩と成捨て歩打を可能にします。後は敵飛を奪取して、之を驅馳して成功する。

作者曰く

本作は發表圖に誤植があつた爲誌友の短評が得られませんでした

第廿四番

八五銀	同角	七六桂	同角
八五歩	同角	九六桂	同角
七六桂	九四玉	八六桂	同香

九五歩	八三玉	七二飛成	同玉
七一銀成	七三玉	八四銀	七四玉
七五銀引	七三玉	七四歩	同龍
同銀	同角	七二飛	六三玉
七四飛成	同玉	七五歩	七三玉
八四角	六三玉	六二角成	五四玉
四四馬	六三玉	六二馬引迄卅九手詰	

鑑評

雪島 彬

後方よりの攻めのきかない形にある故に前方の強力なる要塞陣を如何に突破するか策戦を要するところである。先づと金トイチカニを攻略し移動する敵角を巧みに原駐地にさそひ此の間の四桂の側面射撃に玉側の堅壘も遂に潰え八三玉の脱出となる。以上の追出し迄が第一段階にて秘術を盡しての攻防は本戦の華である。次いで野戦の段階に

入り美事追込みに成功して終る迄息をもつかせない。

第廿五番

三桂三段跳び

二八桂	一五玉	三七桂	一四玉
二六桂	一三玉	五三飛成	同歩
一八香	イ二二玉	三四桂	二三玉
三五桂	二四玉	三六桂	二五玉
二四桂	五八桂成	同角	二四玉
二三桂成	同玉	二二桂成	同玉
三二香成	同玉	四三銀	二二玉
二三歩	同玉	三四銀成	三二玉
四三成銀	四一玉	三三桂	三一玉
二一桂成	同玉	二三香	三一玉
二二香成	同玉	三三と	三一玉
三二と迄四十五手			

變化

イ一四金合なれば一二飛成同歩一四香二二玉一二香成同玉一三歩同玉一四香二五桂成の所直ちに二四玉なれば以下本文へ續き四一玉の時九六角と銀を取りて本文より十手早し。

解説

小林 豊

本局の趣向は圖巧六十四番四桂の追戻しの壘を摩す好局と思ひます。大部分の解答はイの一四金合の變化詰及びロの五八桂成を抜いた三十五手詰でした。九六銀のオトリ駒は面白と思ひます。解答者もその内容より推して有馬氏作ならんと附記されてありました。

鑑評

豊島 誠次

一見して三桂追詰の趣向を露呈する本作は、他の優作例へば故岡田秋霞氏作が主題に至る迄に巧妙な前奏的伏線を有するに對して、やゝ劣位に立つ

312
41

昭和十九年八月十五日印刷
昭和十九年八月二十日發行

【非賣品】

著者 有馬 康 晴
松本市小柳町八五
發行者 阿部 吉 藏
同所
印刷所 淺川活版所

如き感あるも、中盤に於る手順の妙は又他に容易に求め難き味を藏し、補ひ得て餘りあり。殊に三桂の華麗なる跳躍と共に含蓄ある六六桂迄が姿を消す如き、或は一八香に一四金合の變化の如きは面白い、只九六銀は全体の諧調を乱すやうで何となく惜しまれる、桂を主題とする趣向作品としては故秋霞氏の作と竝んで讀ふ可き近來の傑作。衷心より作者に敬意を表して妄評の筆を置く。

短評

雪島氏「當然質駒と思はれた九六銀が伏兵、五八桂成を咬まして角を反撃する意地悪き作者の陥穽よ」
鴨下氏「五八桂成が頗る妙手で、攻撃軍より守備軍の方が活躍目覺ましきは勢力の均衡を缺く爲と思ひます。然し

本局は却々の名作です」
菟集生「三桂の活動妙味津々たり。妙作の部なるも五八角の再活用出來ざるは残念、五八桂成捨を五八角合とし、この合を取らず九六角と銀を取りし時は八五合等する作意も亦妙也と思はれますが」

作者曰く

本作は昭和十七年十月三代宗看の斜め四桂の三段跳びの作にシゲキされ初め縦の四桂三段跳びの趣向で作つたのですが、成功せぬので本作の如くに變更したのです。

解答者は十九名でその中正解者は鴨下、菟集生、豊島、雪島、伊藤園義、亀井の六氏でした。因に得点は九十、八十一、九十、八十、八十七の各点でした。

(終)

終

